



年度末の時期になり、データ整理や振り返りを行う機会が多い頃だと思います。1年を振り返ってみると、異常な高温が続き、今季は暖冬です。その影響か、見かける生き物の種類や時期の変化が目立つ1年でした。

もちろんこの自然の変化は昨年に始まったわけではなく、数年前から目立つようになったと思います。それは幅広く見てみれば、生き物の増減で感じられます。たとえば、近年増加している生き物の中で思い浮かぶのは、ツキノワグマ、ニホンジカやカモシカの大型哺乳類、サンショウクイやコサメビタキなどの鳥類が挙げられます。昆虫類なら、ツマグロヒョウモンやクマゼミなどの南方系の種類が徐々に目立ってきました。また、様々な被害を及ぼす、キクイムシ、マダニやカメムシの仲間などが年々増加しているのはかなり気になります。これらの原因は、温暖化が関係しているのでしょうか。

一方で、ヤマセミやブッポウソウという鳥類は長年定着していません。^{もうきんるい}猛禽類のサシバも最後に市内で繁殖したのはコロナ禍前だったためか、少し古い話に感じます。また、カモ類の越冬個体数は、今季のピークで過去最少になっています。このような減少が見られる生き物に関しては、温暖化以外に、生息環境の変化や消失の影響の方が大きいかと思います。考えられる原因は他にも様々あり、場合によっては不透明です。

この変化の波の中で、これまで見たことがなかった南方系と言われている昆虫類もあります。それは、トゲナナフシというナナフシの仲間で、嬉しいことに2年前市内で初めて確認したシラキトビナナフシに続き、昨年初めて確認しました。このトゲナナフシは、10月と11月に市内の2地区で1個体ずつ発見しました。都内ではレアな種類で、今まで見たことがなかったのに、昨年は2回も会えたのは偶然でしょうか。

実は、トゲナナフシはメスだけで世代交代（繁殖）ができる生き物として知られており、オス個体は全国で数個体しか見つかっていないようです。恐らくほとんどはメスだけで成り立っている生き物なのでしょう。気象が変わってきている影響か、増加している可能性も考えられます。

今後、去るものと来るもので変化が更にスピードアップするのでしょうか。と、増減する生き物たちについては、今年は更にヒントが得られそうです。

(パブロ)



トゲナナフシ